

うまい!

岩船米づくり情報 No. 7

平成 28 年 7 月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター
JA にいがた岩船

3つの補給(栄養・水分・酸素)で暑い夏を乗り切ろう! コシヒカリの2回目穂肥は登熟向上のため必ず施用!

— 重点事項 —

- ◎ コシヒカリの2回目穂肥は、後期栄養確保による登熟向上のため必ず施用する。
- ◎ 出穂後25日間は、根の健康維持を意識した飽水管理を行う(高温時は水の更新)。
- ◎ カメムシによる斑点米発生防止のため、出穂期以降の薬剤防除を徹底する。

1 7月20日現在のコシヒカリの生育状況【普及センター調査ほ】

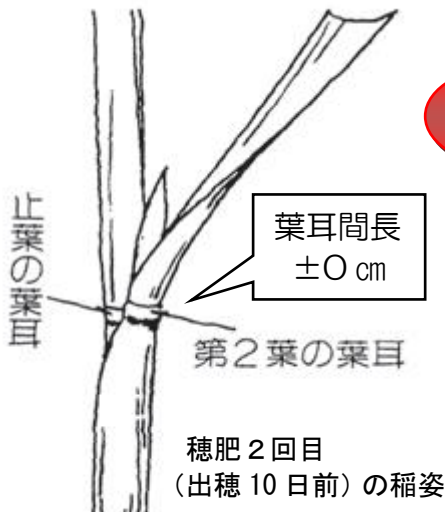
- 草丈：やや長～長い ●茎数：やや少～並
- 葉色：並～やや濃い(一部濃い)
- 出穂期予想 8月7日頃(平年比3日早い)：地域差・ほ場間差大きい
- 草丈や葉色の状況から、倒伏の危険性はやや高いと予想されます。



2 コシヒカリの2回目の穂肥は「適期・適量・確実に」!

- 登熟期の栄養を確保し、「除く青未熟粒」等による格落ちを防止するためにも、出穂10日前穂肥は必ず施用しましょう。
 - その後も高温が続き、葉色の低下が見られる場合は、出穂3日前(走り穂まで)に追加の穂肥施用を検討しましょう(チッソ成分で1kg/10a以内)。
- *穂肥の施用に当たっては、必ずほ場の「生育診断」を行いましょう。

回	時期・幼穂長・外観	診断ポイント	簡易葉色板	穂肥施用例【窒素分量】
2 回 目	【出穂10日前】 ・幼穂長：8cm以上 ・止葉と次葉の 葉耳間長±0cm (止葉葉身が展開)	●草丈：90cm以下 ●下位節間長：15cm以下 (第5+第4) ●葉色：32以下(SPAD) 葉色板単葉は4	「淡」に近い →積極施用 「適」に近い →適量施用 「濃」に近い →減量施用	①積極施用 1.2～1.5kg/10a ②適量(通常) 1.0～1.2kg/10a ③減量(控えめ) 1.0kg/10a以下



重要

基肥一発肥料を使用した場合の 葉色低下への対応について

- 2回目の穂肥時期(出穂10日前)までに、簡易葉色板で「淡」に近くなる(周辺のほ場より明らかに葉色が薄い)場合は、速やかにチッソ成分で1kg/10a程度の追肥を行いましょう。
- 3割減栽培の化学由来チッソ成分量に注意しましょう。

3 暑い夏を乗り切る水管理で登熟向上！

- 今年はエルニーニョ現象が終息し、暑い夏が来ると予想されています。イネの活力維持を図るため、飽水管理を基本に、こまめな水管理を心がけましょう。
- 根への酸素供給と夜間の地温低下を図ることで、根の活力低下を防止しましょう。

その①：十分な水分補給で登熟向上＝飽水管理の徹底

- 幼穂形成期以降は、水田表面を乾かさないように**飽水管理***を継続しましょう。
- 穂肥は、効果を上げるために、水を張った状態で施用しましょう。
- 出穂・開花期間は多くの水を必要とする時期なので、十分にかん水しましょう。
- ***飽水管理**：水尻を止めて浅く湛水し、自然に水が減って田面に水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている状態になったら、再び浅く湛水します。
- 異常高温や強風フェーンとなる場合には事前に速やかに湛水して、稲体の急激な水分不足による障害の発生を防止しましょう。

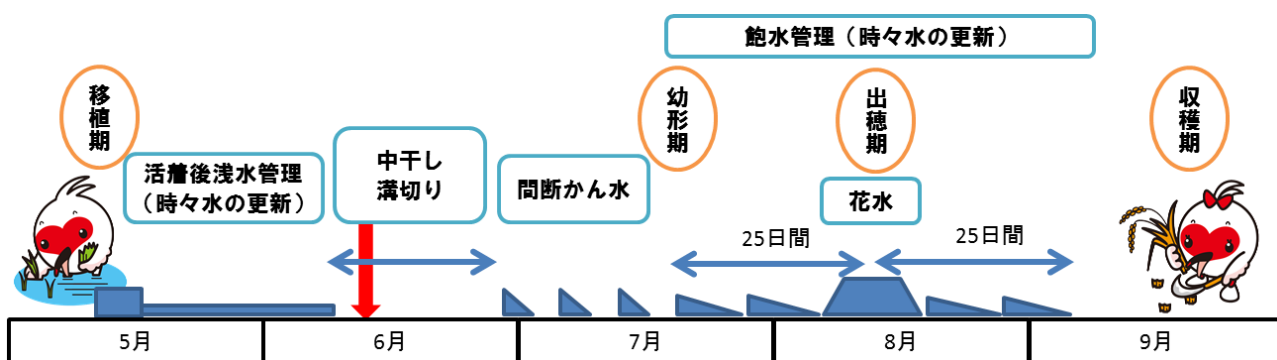


図 水管理のイメージ

その②：酸素補給で根腐れ防止＝定期的な水の交換 (長期間の湛水は厳禁)

- 高温下での長期間にわたる湛水の継続は、根腐れの発生につながりやすいので、こまめなかん水を繰り返しましょう。
- 湿田等で水持ちの良いほ場では、定期的に水の交換を行いましょう。

その③：夜温を下げて十分な休養＝夜間の地温を下げて根を休ませる

- 高温時の湛水条件下では、昼間の地温は気温以下ですが、夜間の地温は気温より 4℃ 前後高くなり、根の活力が低下します。
- 高温が続く場合は、数日おきに夜間落水するなど、地温を下げる工夫をしましょう。

4 カメムシ注意報発令中です！

- 6月 29 日にカメムシ類の多発生に関する注意報が発表されました。
- 出穂期以降 1～2 回の薬剤防除により、水田内のカメムシ駆除を徹底しましょう。
- 近年発生が多いアカヒゲホソミドリカスミカメ及びアカスジカスミカメは、水田内の雑草（ヒエやホタルイ）の穂に集まり、そこで増殖するので、これらの雑草の抜き取りを行うと防除効果が向上します。
- 他の病害虫についても、効果の高い共同防除・一斉防除の実施により、被害を未然に防止しましょう。

右図 斑点米を発生させるカメムシ類

